



消防南分署の統廃合、将来の1本署1分署体制で市民の命と安全は

村田 秀夫 (日本共産党)

問 南分署を廃止し本署に統合して来年度1本署2分署に、将来的には1本署1分署体制に縮小するという「行田市消防署所再編計画(案)」が出されたが、南分署を廃止した場合の救急車の到着時間の遅れの想定は。

答 現在、南分署から南分署管轄へは6・5分だが、本署から南分署管轄へは8・2分かかる。市全体の現場到着の平均は8・1分とほぼ変わらない。

問 本署に救急隊を2隊配置することで、市域全体へ安定的に出動できる。

問 地元説明会では「地域にとつていいことは一つもない。市全体のために我慢しろ」ということか」との意見があった。分署の管轄の再編は考えなかったのか。

答 現場には直近の車両が出動するシステムになっており、管轄を見直し

ても違いは生じない。

問 南分署の管轄地区では到着時間が遅れるが市全体では到着時間が均等になるというが、これは出動要請の重複などに市の消防力全体でも対応し切れない現状を小手先の修正で乗り切ろうとするものだ。消防職員の増は検討したのか。

答 近隣消防本部と比較しても消防職員が少ないわけではない。検討していない。

問 今後も増加する消防、救急出動に対し、さらに分署を削減すると市の消防力が低下する。計画案を再検討し、必要な人員を確保し消防力の向上を図るのが本来ではないか。

答 1本署1分署体制は効率よく消防車両、人員等を運用する方策である。

その他の主な質問
○住宅改修資金補助制度の拡充について



多すぎる公共施設と不要になった住宅のマネジメント

細谷 美恵子 (発言と行動する会)

問 本市公共施設マネジメント計画第1期(2025年度まで)の目標達成見込みは。

答 削減目標約6%に対し現時点では約1・7%。

問 市は学校の再活用を優先的に公民館で説明してきた。しかし星宮小学校は埋蔵文化財センターの拡張移設等とし、同現センターの除却も計画していない。これで公共施設の集約になるのか。

答 学校施設なので教育委員会中心に計画した。

問 廃校後は普通財産として扱うものではないか。

答 一義的には総合政策部に扱うべきだが暫定的に教育委員会が管理する。

問 本市の空き家の現状は把握しているか。

答 平成30年住宅・土地統計調査では、本市の住宅総数3万6410戸、うち空き家は4930戸、13・5%であった。

問 空家等対策計画による削減効果はあったか。

答 令和2年度末までに累計517件の管理不全空き家のうち283件、54・7%が改善された。

問 周辺に危険を及ぼすまで放置された空き家に対し、過料や代執行を伴う特措法を使わず、応急措置や解体補助金を出す条例で対応する現状は、「危険状態まで放置する方が得だ」との誤誘導になつてはいまいか。

答 改善率は高まつており条例の効果はある。

問 初期段階での対応に対する顕彰や空き家改修費、解体費への補助金交付はどうか。諸費用等の情報提供など、悩む住民への行政サービスこそ重要だと考えるがいかがか。

答 平均解体費用は約1万4千円/mである。「一相続おしかけ講座」など実施していきたい。



教育について

福島 ともお (れいわ創生の会)

問 行田の近現代の人物について

答 本市には、林頼三郎氏、大澤龍次郎氏ほか、行田市名誉市民をはじめとする行田の礎を築いた郷土の偉人たちが数多くいるが、これらの人物については、公立学校でどのように取り上げているのか。また、市としてはどのように普及啓発を行っているのか。

問 現状、市内の小・中学校において、授業や特別授業で具体的に扱っている例はないが、今後研究していく。名誉市民については、市ホームページに肖像写真とその功績を掲載しているほか、小・中学校や公民館などの公共施設に肖像写真を掲示している。また、行田市史普及版「行田の歴史」や郷土博物館テーマ展等において行田ゆかりの人物を取り上げ、その

功績を紹介している。今後においても様々な形で発信していく。

問 本市のホームページでは、文化財に関して丁寧に説明をしていますがわかりやすい。一方で、人物に関してまとめているページはない。友好都市の三重県桑名市のホームページでは、文化・歴史の郷土史ということで、人物編が載っており、人物について詳しく確認できる。本市でも同様に行きたいか。

答 本市には、歴史や文化、人物等たくさんあるので、市民がわかりやすいよう整理し、また、他の市のホームページも参考にしながら、見やすいホームページづくりを研究していく。

その他の質問
○水城公園について
○新ごみ処理施設について